第２回新規恒久施設等の後利用に関するアドバイザリー会議　議事の内容

オリンピック・パラリンピック準備局

１　開催日時　　平成 27 年 1 月 16 日（金曜日）17:30 から 19:30 まで

２　開催場所　　都庁第一庁舎 42 階北塔　特別会議室 A

３　出席委員　　外部有識者委員　　6 名
　　東京都委員　　12 名
　　組織委員会委員　　8 名　　計 26 名

４　会議の公開　一般傍聴者　　24 名

５　会議内容の概要

（１）開会あいさつ

（２）講演と意見交換

「わが国におけるスポーツのニーズ」について澤井委員から、「資料１」に基づき、説明がありました。スポーツニーズには「する」と「みる」があり、するニーズは競技性の高いものから健康増進型へシフトしてきている現状の分析、みる対象は競技性の高いものだけでなく、学校の運動会まで幅広いことなどをご説明いただきました。

次に「スポーツ施設への民間活力導入について」株式会社日本政策投資銀行より「資料２」に基づき、説明がありました。利便性の高い立地戦略が、収入源の多様化、興行の活発化、利用用途の多様化につながることなど事例をまじえながらご紹介いただきました。

意見交換では、2002 ワールドカップのサッカー観戦を契機とし、自分でサッカーを始めた人が相当いることや、日本の観戦型スポーツについてのインバウンド観光客の誘致がビジネス上でも、研究的にも入口に立ったところではないかということがディスカッションされました。みるスポーツに関連して、車いすスポーツのときに車いす用の席をふやすことができるように、観客席に移動式のものが採用されている施設がある事例などが話されました。

（３）東京都長期ビジョン（「資料３」参照）

（４）新規恒久施設等に対する意見（「資料４」及び「資料５」参照）

（５）新しく整備する恒久施設等について意見交換（「資料６」から「資料１５」まで参照）

ア　オリンピックアクアティクスセンター

- 競技団体意見にもあるとおり、辰巳の機能をアクアティクスセンターに引継ぐ

のがよい。ただ、50m プールがこの近さに 4 面というのは少し多すぎる。辰巳のプール槽の使い方として、水面を残して、カヌーポロやセーリングなどの練習に活用するという考え方もあるように思う。その場合でも、施設設備の耐用年数とその改修・維持にかかるコストなど総合的に今後検討して、慎重に使い方などを判断した方がよい。

- どのプールも水深が深いため、稼働床にしてもらえるとお年寄り、子供が利用しやすくなると思う。
- 辰巳とアクアを２つとも水泳場とするのは、エネルギーロスが大きい。PFI 等を使って、体育館なり、スポーツ施設以外の多目的施設にするなり、民間のアイデアでやる方が、官の財政負担なく、民･官がウィンウィンになるのではないか。
- 辰巳について、建物の長寿命化が非常に大事な世の中であるため、既存のストックのベースビルディングを活かして、こんなリファイングができたということがあれば、新しい東京モデルになる可能性もある。
- 辰巳の施設を活用するのか更地に戻すのかということは、コストと利用可能性を今の段階から計画的にやるのは難しいと思う。リフォームやアイデアを含めた民間のコンペティションみたいなものもありではないか。
- 同じ機能のものを２つ置く必要はない。辰巳の先には「夢の島公園」「BumB」「海上公園」があり、それらと辰巳がそれぞれ個別に管理されているのは、使い方としてあまりうまくないと思う。アクア･辰巳をどう使うかということと、これら公園全体をどう考えるかを非常に高い視野からのビジョンが必要ではないか。
- ロンドンでは、スポーツ参加率の向上させる取組の一環として、特定年齢の対象のプール利用料を無料にしたことがある。スポーツ実施率の向上、健康増進、地域の活性化には、民に施設運営を任せる中で、官としておもしろい取組やアプローチを考えるべき。

イ　海の森水上競技場

- 競技スポーツができるだけでなく、広大な土地と人が居住していないという立地で、都心・スカイツリー・ゲートブリッジなどの景色が見渡せる場所。無限の可能性を秘めている。
- どうやってこの場所を盛り上げていくかという観点から区や競技団体要望を活用したり、シドニーオリンピックのボート会場後利用も参考にしたりしてはどうか。
- 最近の若手経営者などの間ではトライアスロンの人気が上昇している（タイムを競うなど）。しかし、トータル練習（バイク、ラン、オープンウォータースイミング）が安全にできる環境がないのが現状。海の森をトレーニング施設として日常的に活用してもらえる可能性があるのではないか。
- 水上スキーのような最近の水系スポーツのメッカになる可能性もある。
- 車いすマラソンの選手や自転車競技の選手が安心して練習できる場所としての

可能性も。あわせて、ジョギングコース、バーベキューなどの競技者を育てる施設（練習後には楽しめる施設）というものがあってもよいのでは。

- 競技施設だけで議論してもしょうがなく、周りの広い緑空間が都民に与えるものは何かを考えるべき。この人工的につくる競技施設には、ここの広いエリアを使うためのさまざまなサポート施設があってしかるべき。このエリアをどう使いこなすか、ある種のビジョンをもって、サポート施設をつくるべき。

ウ　有明アリーナ

- 隣の仮設用地に、東京ドームなどのような複合施設としてシナジーが得られるような商業利用などをどのように組み合わせるのかが論点になるように思う。
- 観客席 12,000 席は、バスケ、バレーのリーグ戦ではちょっと大きすぎる印象。プロ競技に限らず、高校・大学の試合などである程度観客動員できそうな大会やコンサートなどのイベントについてもあたりを付け、周辺開発も考えなくてはならないが、需要を油断せずに見極めた方がよい。
- 新規恒久施設等の後利用のことではないが、既存の 1 万人以上収容可能な施設について、仮設だとかほかも含めて、使える資源はきちっと大会開催に使う方がよいと思う。
- 有明の周辺状況を認識するにあたり、ビッグサイトの新しい展開が、どういう将来予測で、どういう規模のものができるのか教えてほしい。

エ　葛西臨海公園（カヌー・スラローム）

- カヌーをやってみたい自分にとっても、魅力的。ソフト面の話になるが、初心者や一般都民がそこに行ったら指導してもらえる、いろいろサポートしてもらえるといったこととペアであることが将来的に必要だと思う。
- 体験型スポーツテーマパークの「カヌー」「ラフティング」版のようなポジションが得られるのでは。都会でこういう体験ができることで、その楽しさに目覚めた方が、地方に行って渓流でやってみるということにつながれば、地方創生にも貢献できる。
- 競技団体がいろいろなことをこの施設でやりたいということは大事なことであるが、実際にそれが実現可能なのかどうか、冷静な見極めも必要。有明アリーナもだが、運営主体をどこにするのかは大きな課題。ロンドンのＯ２アリーナの成功は、あのイベントを誘致できる運営団体だから成功しているという側面がある。そういう成功の可能性を高める運営体制、運営団体をしっかりと考えるべき。
- ロンドン大会の会場のスラロームのポンプの動力は、ソーラーパネルで賄っていた。ラフティングをレジャー以外のチームビルディングを培う企業研修で使うこともされており、都心近郊でできるということを含め、魅力的だった。都心での体験は、自然の中でやってみたいということにつながる。いろいろな自治体の力も借りながら、さまざまな地域で実施する継続的なプログラムを考えてみるのもいいと思う。

- 越谷のレイクタウンでは、サポーターなどがいてディンギー・カヌーを楽しむことができている。人々がちょっと身近な水面で楽しむスポーツのある種の代表かも。そこで、水面で楽しむスポーツの初歩の練習を、先の意見にもあった辰巳の水面を使い、連携をうまくやって、その拠点を葛西に作り、ここにくるまでは１つ２つ段階を踏んでチャレンジしにくるというようなことができる仕組みを作るものよいと思う。

オ　大井ホッケー競技場

- グラウンドのホッケー専用人工芝は通常のものより芝目が短く、転用が難しいと聞いている。アメフトは練習や下位リーグなら可能と思うが、他の競技での利用については、ホッケー競技団体を含め、確認した方がいい。
- 脳性麻痺７人制サッカーの競技会場として予定されているが、この７人制サッカーの方から、障害の特性上、競技者が転倒してしまった際、天然芝でないコートの場合、骨折した事例が多いという報告を受けている。

カ　夢の島公園（アーチェリー）

- 辰巳と夢の島の間の水面は非常に魅力的。真ん中に鉄道が走り、北にはスカイツリーが見える。しかし、水面脇にある少年野球のスタンドは水面とまったく関係なく並んでいる。今回のアーチェリー場は、そういうところまで含めてプランを描いてほしい。
- 水辺をうまく活用するデザインというのは、すごく意識した方がいい。アメリカのＳＢＣパークにはライトスタンドがなく、ホームランを打つと運河にボールが飛び込むという。またこのパークへは海からのアクセスも可能になっていて、フェリーでアクセスするという演出も可能になっている。水辺にあって、いろいろな景観があるということをうまく利用するというのは意識してやってほしい。
- ここは他の施設に比べて、高級な建築物を建てるわけではないので、あわてて用途を考えなくても、もう少しゆっくりでもよいのでは。
- 広場だけということだが、見る人のことも考えるべき。利用するのにロッカールームなど諸室がちゃんとそろっているということは大事。

キ　若洲海浜公園ヨット訓練所

- 小学校・中学校の体験授業に使う、修学旅行での利用をしてもらうことなど、教育施設として使うことを考えてもよいのでは。
- 借景的には、目の前に葛西臨海公園、その向こうにディズニーランド、そこの花火も夜には上がる、非常に可能性を秘めた場所。
- 水スポーツ系の統一感をもった都民向け案内などがあると親しみやすくなる。水辺のスポーツをやってみようとか、その楽しみ方とか、それをやったらバーベキュー場があるよとか、夏になったら野外コンサートができるよとか、そういうその後の楽しさを一括して水スポーツをエリアとして楽しむアナウンスができると、都民にわかりやすいと思う。

- ヨットをどうやって東京都の中で管理していくのかを頭に描いてみると、まだまだやりたくなる人が増えてくるように思う。

（６）これまでの論点整理（「資料１６」参照）

- アクセシビリティの確保のところに、言語の問題を明記すべき。最低限、英語、中国語は示す必要があると思う（なお、公用語は英語・フランス語）。
- 新規恒久施設等１つ１つは点であり、それらを１つの面にするのは、道や鉄道。例えば、銀座線や大江戸線と有明が結ばれるとすると、終点が有明になる。そうなると有明の価値が大きく変わる。点を面に変えるストーリーについて、全体を統一するコンセプトとして戦略的に付け加えてもらいたい。
- さまざまな人にいろいろな場面で参画してもらい、その施設に愛着をもってもらう取組をすると、オリンピック大会時のボランティアや将来利用者につながるのではないか。そういうプロセスのシナリオを描きながらすることが、さらに社会全体や水辺のスポーツネットワークに広がっていくようなことをなると思う。
- 地方とどうネットワークを組んでいくのかをあらかじめ考え、相互利用・交流を目論んで、都だけでなく、地方と一緒につくっていくというものがあってもよい。
- ７つの施設に共通するデザインコンセプト・デザインコードみたいなものを導入できるとよいと思う。
- 都会で水辺のスポーツが体験できるということを一大コンセプトとし、新規恒久施設等のエリアを１つのテーマパークみたいに捉えて、憧れと体験とをもって地方に波及していくというのはよいと思う。
- 施設を作ったが使いきれていないということが生じないようハード面の課題をきちんととらえる必要がある。また、ソフト面が点と点をつなぐ大事な要素になっていくと思う。スポーツをどうしていくのかという面、都市づくりの面を含めて、一体的な議論が今後も必要。
- 行政は地域のグランドデザインをきちんと描いて提示すべき。そうすることで、民間がビジョンを描きやすくなり、いろいろなアイデアや中長期的な収支などを出すことができ、実行可能性や持続可能性の適切な見極めが可能になると思う。
- １９６４年大会のときは、やむなく東京の水辺を消してきた。今回は、埋め立てによる新しい水辺が出てきた中で、東京の魅力として水辺があるのだということを、施設共通で何か打ち出すと、この臨海部全体の水辺がじわじわと楽しいものになっていくのではないか。